

要旨

目的：母乳育児をサポートする場面で、助産師のどのような関わりが母親の自己効力感を高め母乳育児中の母親を支えることができたかを明らかにすることを目的とした。

研究方法：質的記述的研究デザインを用いた。研究対象施設は関東近郊の助産院を便宜的に抽出した。研究対象者は正期産で単胎児を出産した初産の女性で、母乳育児を行っている、もしくは行っていたことがあり、母乳育児に関するケアを受けた経験があり、産後1年以内で母児共に経過良好であると医療施設で診断されている女性とした。研究対象者に対しインタビューガイドをもとに半構成的面接を行い、得られたデータの逐語録を作成し、内容を分析しカテゴリー化した。抽出されたカテゴリー名や分類が妥当かどうか、該当領域の研究者と議論を重ねた。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号:17-A073)を得てから行った。

結果：初産婦5名に半構成的面接を行った結果、自己効力感を高め母乳育児中の初産の母親を支えた助産師の関わりとして、【母乳育児の後押しとなる言葉を掛ける】【母親が張り切り過ぎずリラックスできる環境を作る】の2つのコアカテゴリーが抽出された。【母乳育児の後押しとなる言葉を掛ける】は、《今のままでいいというメッセージを伝える》《母乳育児継続のための具体的アドバイスを伝える》《児の健康・成長を伝え安心感を与える》という3つのカテゴリーから構成されていた。【母親が張り切り過ぎずリラックスできる環境を作る】は、《関係は途切れないというメッセージを間接的に示す》《気持ちがあほぐれるように雰囲気・関係性を作る》という2つのカテゴリーから構成されていた。

結論：母乳育児中の母親は、助産師がケアの場面で醸し出す雰囲気や態度、作り出そうとする関係性といった非言語的な関わりによっても支えられていたことが考えられた。母親が求めている助産師の対応として、次の3点が挙げられた：1.助産師の存在が母親の拠り所となるように、母親を受け入れまるごと包み込む、2.母親の強みを見つけ、今までの努力を認める、3.豊富な知識をもとにしたアセスメントをし、ケアに結び付ける。また、【母親が張り切り過ぎずリラックスできる環境を作る】という関わりを基盤として、【母乳育児の後押しとなる言葉を掛ける】ことが重要であることが示唆された。